

【小特集：中国のニューエコノミー／ニュービジネス（情勢分析研究会報告）】
【報告】

特集に当たって

大橋 英夫

2017年度中国経済経営学会情勢分析研究会（第4回）が下記の通り開催された。ここでは、その概要を報告し、講演記録を掲載することとする。

日 時：2018年3月17日（土）13：30～16：30

場 所：専修大学神田キャンパス

テーマ：「中国のニューエコノミー／ニュービジネス」

講 師：何書勉氏（株式会社 NeoX 代表取締役）

「中国のベンチャー企業のチャンスとストレス」

湯進氏（みずほ銀行国際営業部主任研究員）

「中国自動車市場の成長と“EV 革命”の動向」

参加者：16名

先端技術の応用分野において、中国企業が我々の想像を遥かに上回るほどの激しい進化を遂げている。スマホ（QR コード）決済の発達に伴うキャッシュレス社会の実現、シェアバイクの普及にみられるシェアエコノミーの到来、広範囲に及ぶネットショッピングや迅速なデリバリーなど、その著しい変化は日常生活に密着した次元からも体感することができる。また生産現場では「工業機器人」・自動化、IoT の導入が進み、事業展開やマーケティング戦略では AI やビッグデータの活用が進められている。

現在の中国では、北京、深圳、杭州、上海といっ

た世界に知られたハイテク・シティのみならず、地方都市でも「衆創空間」が設けられ、「自主创新」や「万衆創新・大衆創業」のスローガンを目にする事が多い。中国企業も生産高の多寡よりも、特許出願数を競うような風潮が強まっている。

そうしたなかで、アント・ファイナンシャル、小米、滴滴出行、DJI、寧徳、餓了麼などなど、評価額が10億ドル以上の非上場ベンチャー企業・「独角獣」（ユニコーン）企業が誕生し、その動向が注目されている。ほんの少し前までは、「世界の工場」と呼ばれていた中国経済・市場のこの劇的な変化を、我々はいかに捉えればいいのか。

今年度の情勢分析研究会では、楽天チーフサイエンティスト、GREE を経て、EC、AI、ビッグデータ、ベンチャー投資などの分野において日中ビジネスに深く携わってこられた経営者、そして中国の自動車市場を観察し続け、今日の“EV 革命”と真正面から取り組んでいる産業エコノミストをお招きし、「中国のニューエコノミー／ニュービジネス」の一端を考えてみたいと思う。

なお、講演記録の作成にあたっては専修大学・李春霞氏のご助力をいただいた。記して感謝したい。

（おおはし ひでお・専修大学）